

■報告目的

- ・ポルトガルの地理の教科書において、欧州やEUはどのように表象されてきたのか

■議論

- ・欧州の捉え方は時代により大きく異なる

■1930年代

- ・世界・欧州→戦間期、ファシズムの台頭
- ・ポルトガル→サラザール体制
- ・特徴→文化的一体性としての欧州、文明の中心としての欧州、植民地帝国に関する描写

■1950-1960年代

- ・世界・欧州→冷戦、欧州統合、脱植民地化開始
- ・ポルトガル→カエタノ体制、アフリカ植民地戦争
- ・特徴→前時期と同じ特徴を有するも、欧州についての描写はさらに増加

■1970年代

- ・世界・欧州→デタント、新規独立諸国の台頭、石油危機、欧州統合の停滞
- ・ポルトガル→権威主義体制崩壊、アフリカ植民地独立
- ・特徴→欧州は引き続き文明の中心として捉えられるも、登場する割合は減少

■1980-1990年代

- ・世界・欧州→冷戦終結、EU発足、
- ・ポルトガル→EC/EU加盟、経済成長
- ・特徴→文化面に相対化、脱中心化、EUや経済面に関する描写の増加（欧州＝EU）

■2000年代以降

- ・世界・欧州→グローバル化、「文明の衝突」、EU拡大
- ・ポルトガル→通貨統合、経済停滞
- ・前時期の特徴がさらに進み、欧州に関する描写は優越性から個性へと転換

※参考文献

E. M. Costa, et.al, “A Preparação Geográfica da Europa através das Imagens Presentes nos Manuais Escolares, Uma Análise Evolutiva de 1933-2009”, Actas do XVII Colóquio Ibérico de Geografia, 2012. (教科書の図を通して見る欧州の地理に関する認識の変遷、1933-2009年)